【問 25（医療福祉従事者対象）担当している患者（入所者）が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合の延命医療について】

すべての医療福祉従事者において延命医療に対して消極的な回答（「どちらかというと中止するべきである」、「中止するべきである」）をした者の割合が多かった。また看護・介護職員において、「わからない」と回答した者も一定数見られた（図５９）。
また、年代別では、一定の傾向は見られなかった（図６０）。

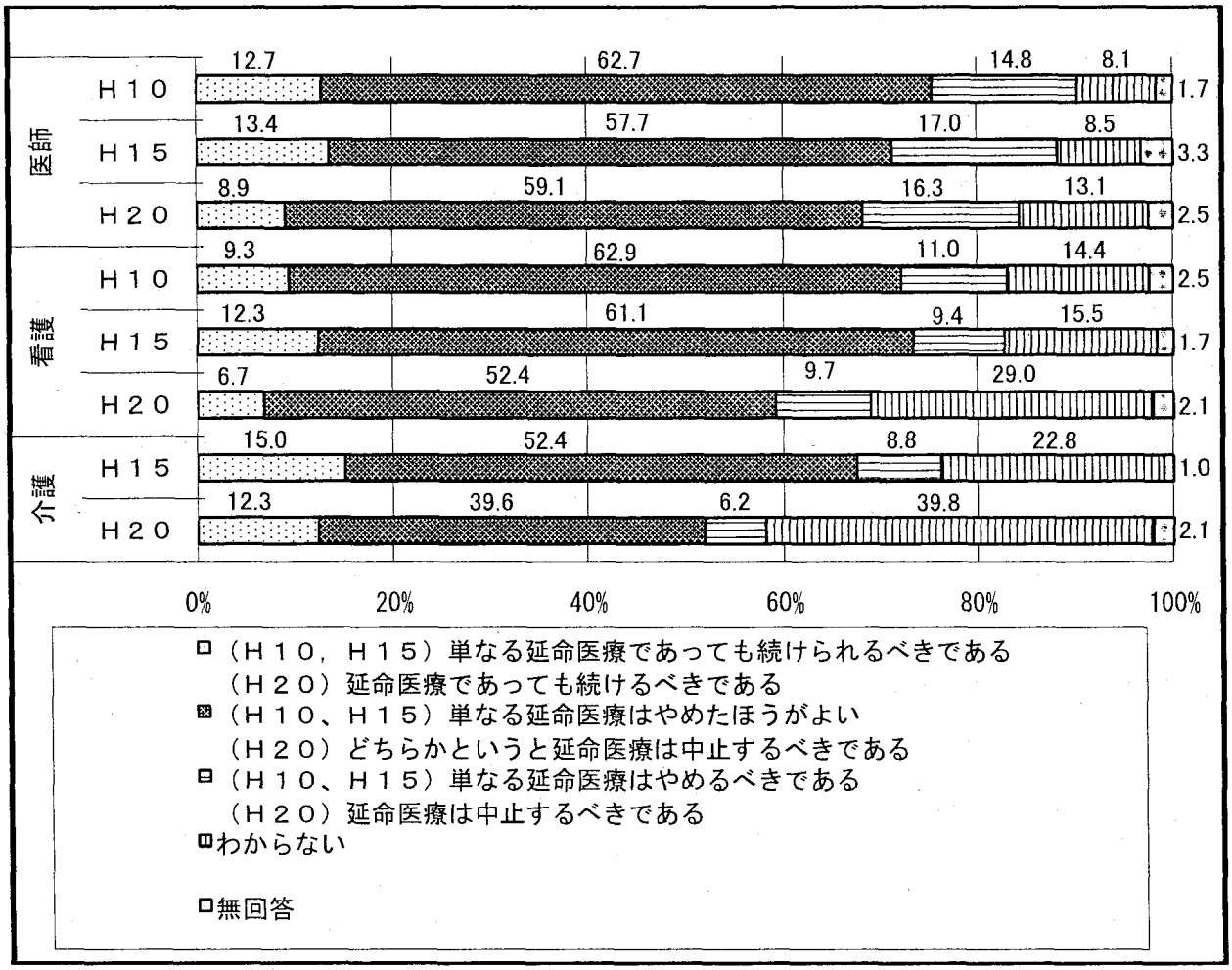

図 59

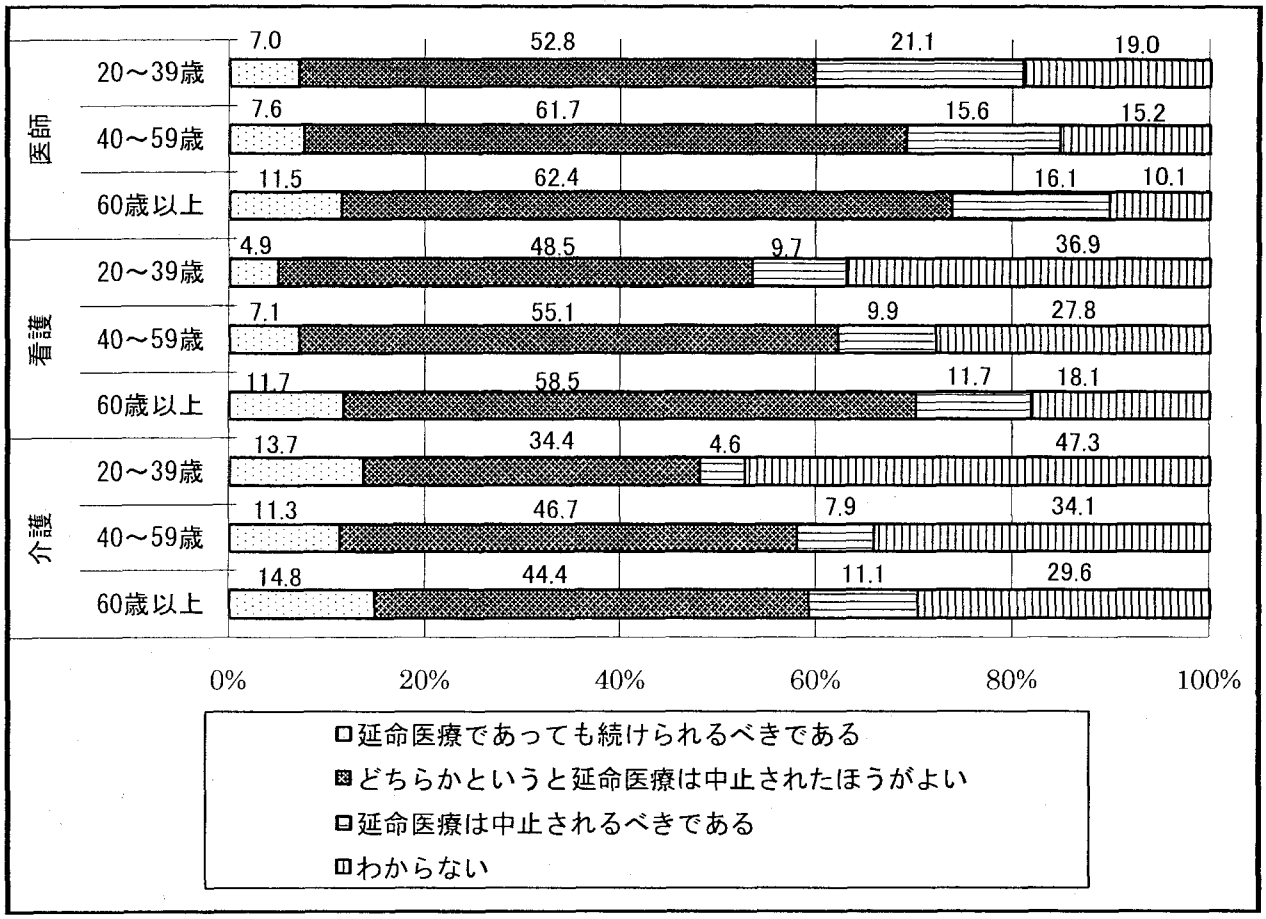
医師
20～39歳
7.0
52.8
21.1
19.0
40～59歳
7.6
61.7
15.6
15.2
60歳以上
11.5
62.4
16.1
10.1
看護
20～39歳
4.9
48.5
9.7
36.9
40～59歳
7.1
55.1
9.9
27.8
60歳以上
11.7
58.5
11.7
18.1
介護
20～39歳
13.7
34.4
4.6
47.3
40～59歳
11.3
46.7
7.9
34.1
60歳以上
14.8
44.4
11.1
29.6
0%
20%
40%
60%
80%
100%
延命医療であっても続けられるべきである
どちらかというと延命医療は中止されたほうがよい
延命医療は中止されるべきである
わからない

図 60

【問 26（医療福祉従事者対象）　担当している患者（入所者）が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合、具体的にどのような時期に中止するか（問 25 で「どちらかというと延命医療は中止すべきである」「延命医療は中止すべきである」と回答した者を対象）】

すべての医療福祉従事者において「意識不明の状態から回復しないと診断されたとき」よりも、「生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき」と回答した者の割合の方が多かった（図６１）。
また、年代別では一定の傾向は見られなかった（図６２）。

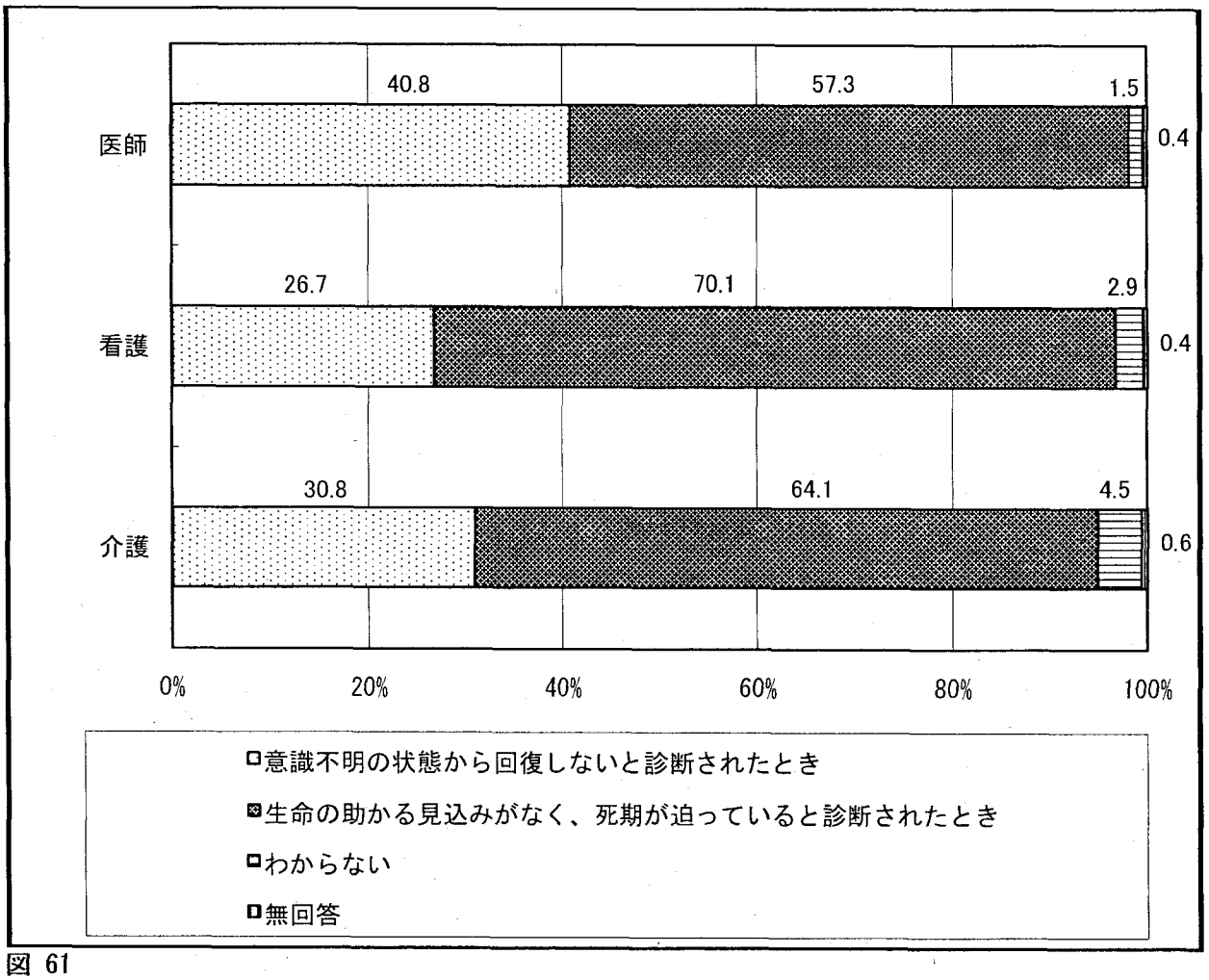

図 61

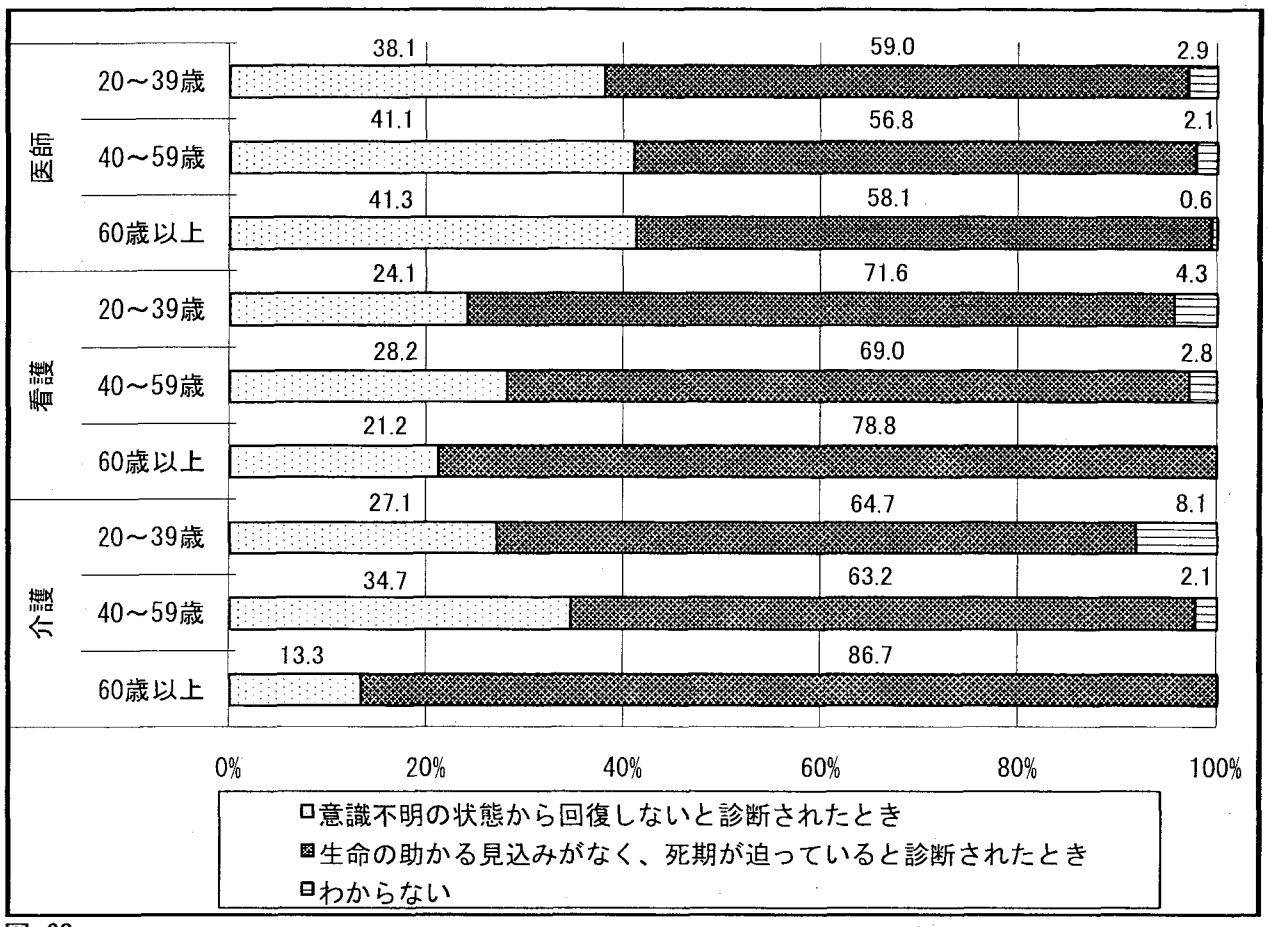
医師
20～39歳
38.1
59.0
2.9
40～59歳
41.1
56.8
2.1
60歳以上
41.3
58.1
0.6
看護
20～39歳
24.1
71.6
4.3
40～59歳
28.2
69.0
2.8
60歳以上
21.2
78.8
介護
20～39歳
27.1
64.7
8.1
40～59歳
34.7
63.2
2.1
60歳以上
13.3
86.7
0%
20%
40%
60%
80%
100%
意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
わからない

図 62

【問 27　（医療福祉従事者対象）担当している患者（入所者）が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合、具体的にどのような治療を中止することが考えられるか（問 25 で「どちらかというと延命医療は中止すべきである」「延命医療は中止すべきである」と回答した者を対象）】

すべての医療福祉従事者において「人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止」と回答した者の割合が多かった（図６３）。
また、年代別では一定の傾向は見られなかった（図６４）。

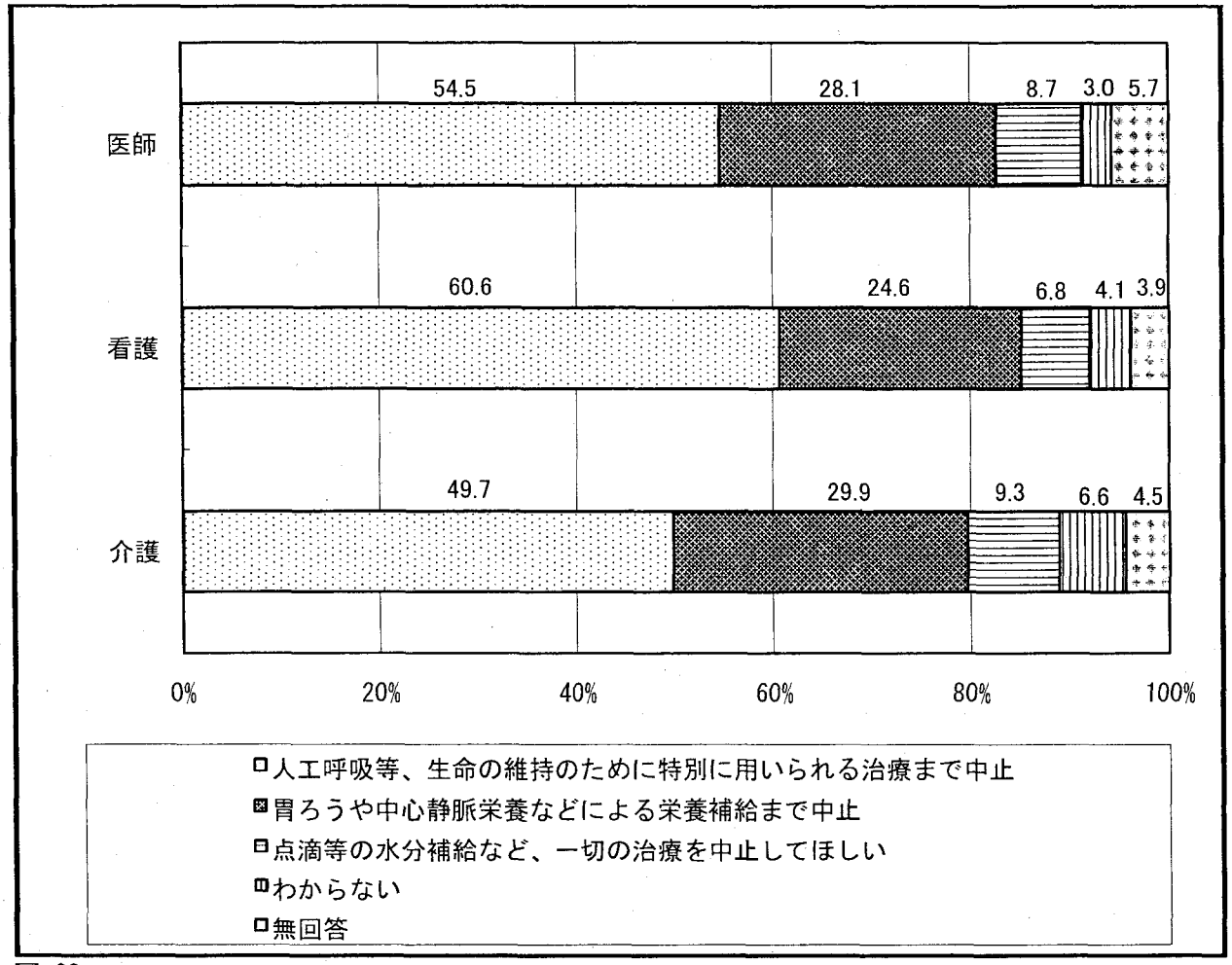

図 63

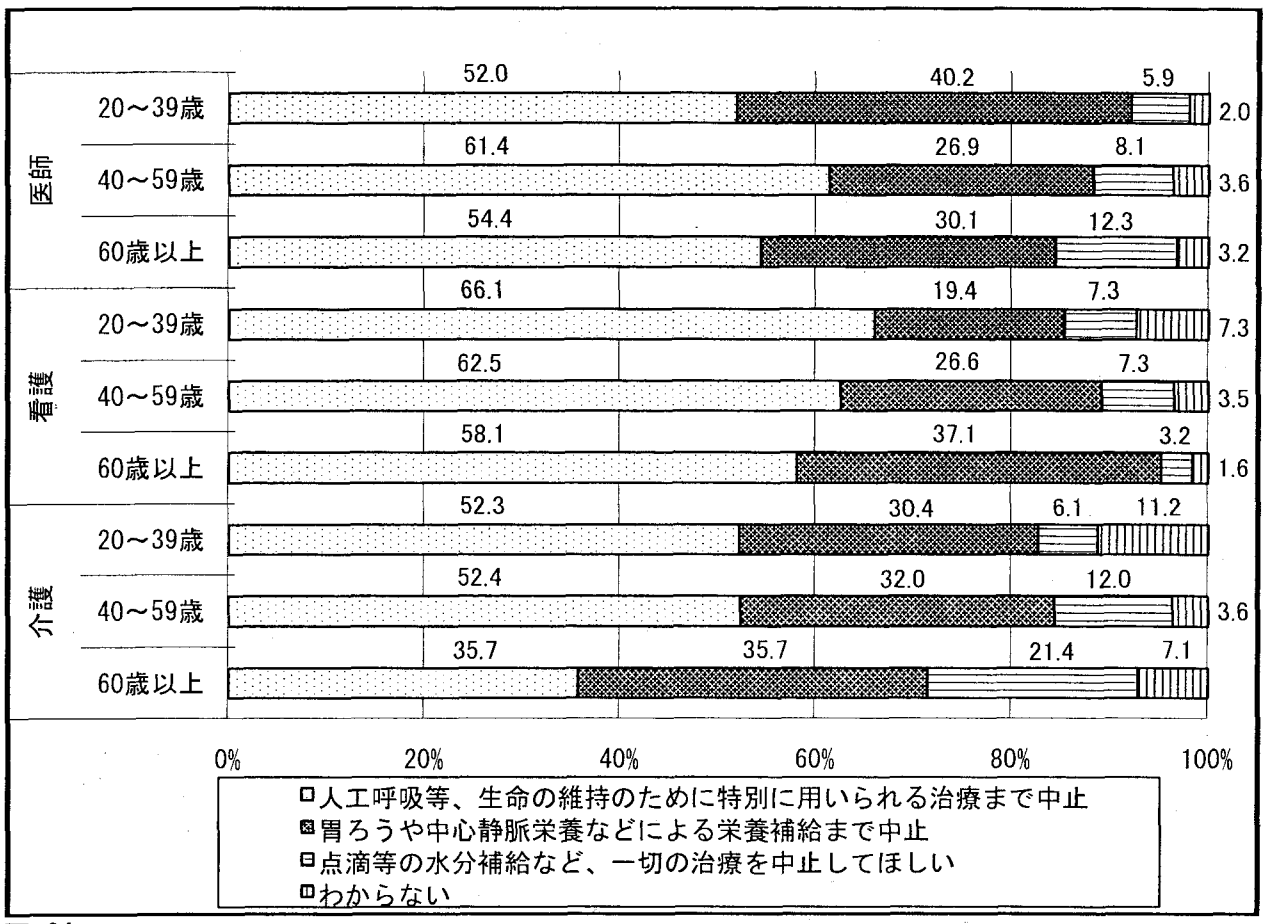
医師
20～39歳
52.0
40.2
5.9
2.0
40～59歳
61.4
26.9
8.1
3.6
60歳以上
54.4
30.1
12.3
3.2
看護
20～39歳
66.1
19.4
7.3
7.3
40～59歳
62.5
26.6
7.3
3.5
60歳以上
58.1
37.1
3.2
1.6
介護
20～39歳
52.3
30.4
6.1
11.2
40～59歳
52.4
32.0
12.0
3.6
60歳以上
35.7
35.7
21.4
7.1
0%
20%
40%
60%
80%
100%
人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止
胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止
点滴等の水分補給など、一切の治療を中止してほしい
わからない

図 64

（６）脳血管障害や認知症等によって全身状態が悪化した患者に対する医療のあり方

【問 28　自分が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合の延命医療について】

一般国民及び医療福祉従事者ともに、延命医療に対して消極的な回答（「どちらかというと望まない」、「望まない」）をした者の割合が多かった（図６５）。

また、延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも延命医療に消極的な回答をした者の割合が多かった（図６６）。年代別では、一定の傾向は見られなかった（図６７）。

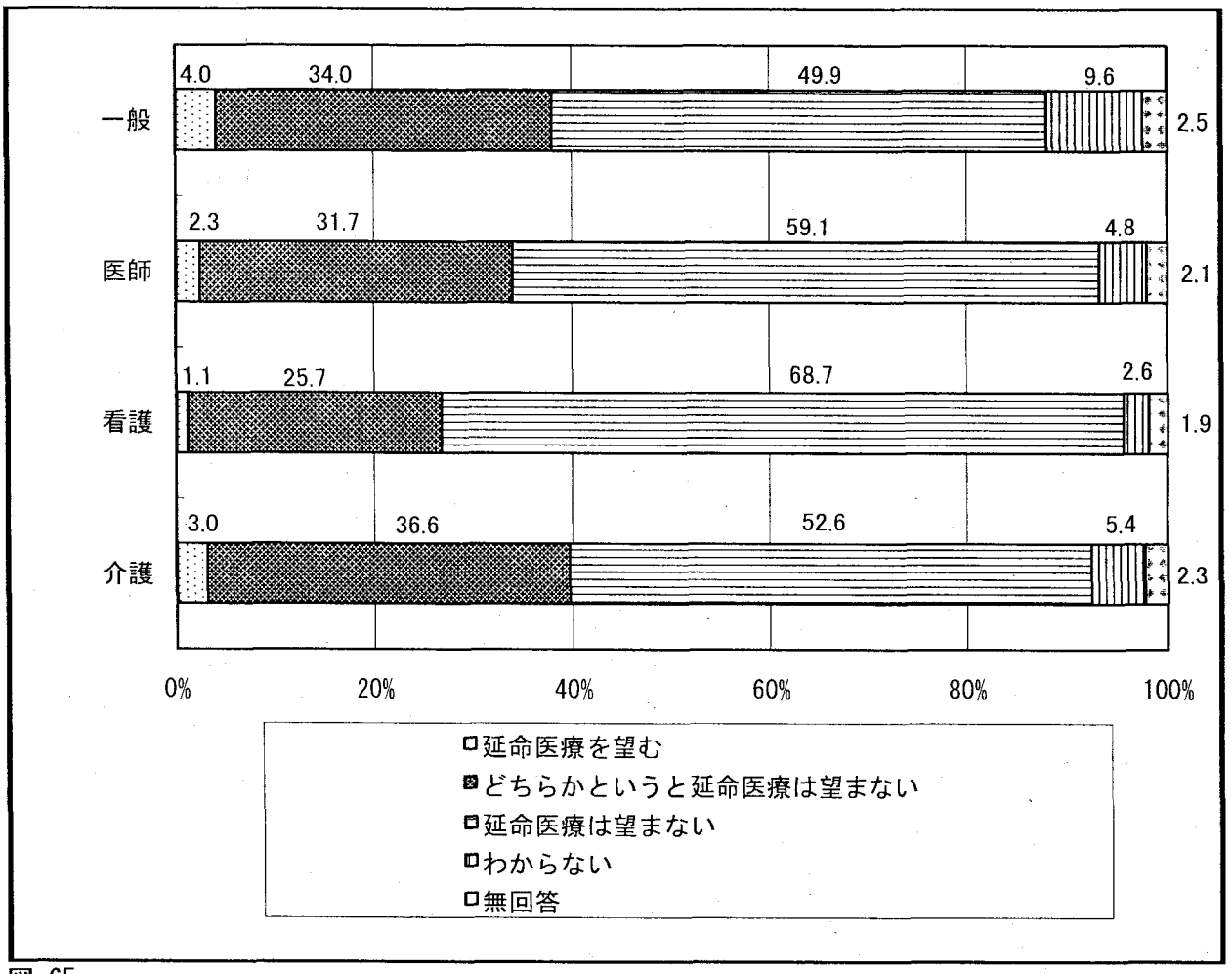

図 65

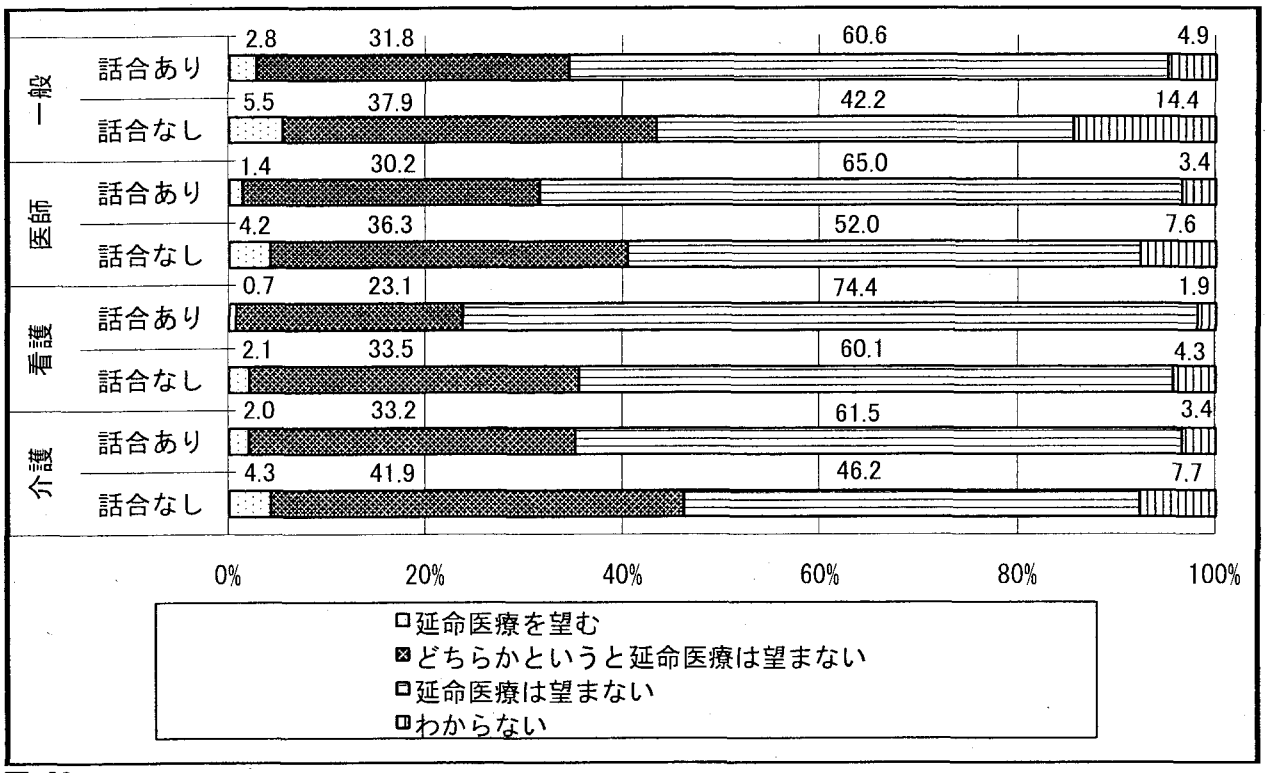
一般
話合あり
2.8
31.8
60.6
4.9
話合なし
5.5
37.9
42.2
14.4
医師
話合あり
1.4
30.2
65.0
3.4
話合なし
4.2
36.3
52.0
7.6
看護
話合あり
0.7
23.1
74.4
1.9
話合なし
2.1
33.5
60.1
4.3
介護
話合あり
2.0
33.2
61.5
3.4
話合なし
4.3
41.9
46.2
7.7
0%
20%
40%
60%
80%
100%
延命医療を望む
どちらかというと延命医療は望まない
延命医療は望まない
わからない

図 66

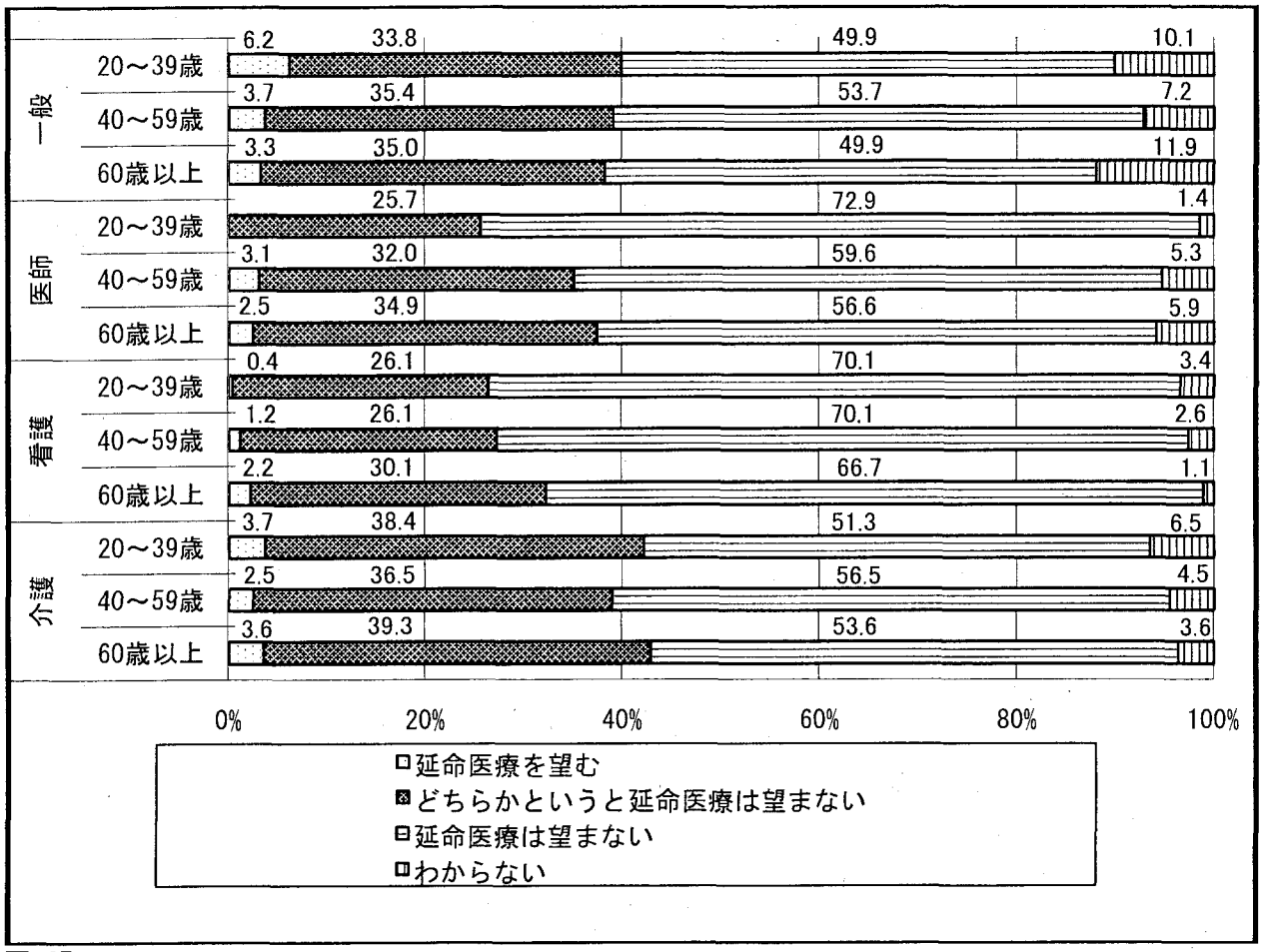
一般
20～39歳
6.2
33.8
49.9
10.1
40～59歳
3.7
35.4
53.7
7.2
60歳以上
3.3
35.0
49.9
11.9
医師
20～39歳
25.7
72.9
1.4
40～59歳
3.1
32.0
59.6
5.3
60歳以上
2.5
34.9
56.6
5.9
看護
20～39歳
0.4
26.1
70.1
3.4
40～59歳
1.2
26.1
70.1
2.6
60歳以上
2.2
30.1
66.7
1.1
介護
20～39歳
3.7
38.4
51.3
6.5
40～59歳
2.5
36.5
56.5
4.5
60歳以上
3.6
39.3
53.6
3.6
0%
20%
40%
60%
80%
100%
延命医療を望む
どちらかというと延命医療は望まない
延命医療は望まない
わからない

図 67

【問 29　自分が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合、具体的にどのような時期に延命医療の中止を望むか（問 28 で「延命医療をどちらかというと望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象）】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき」より「意識不明の状態から回復しないと診断されたとき」と回答した者の割合が多かった（図６８）。

また、延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも「意識不明の状態から回復しないと診断されたとき」と回答した者の割合が多かった（図６９）。年代別では、一定の傾向は見られなかった（図７０）。

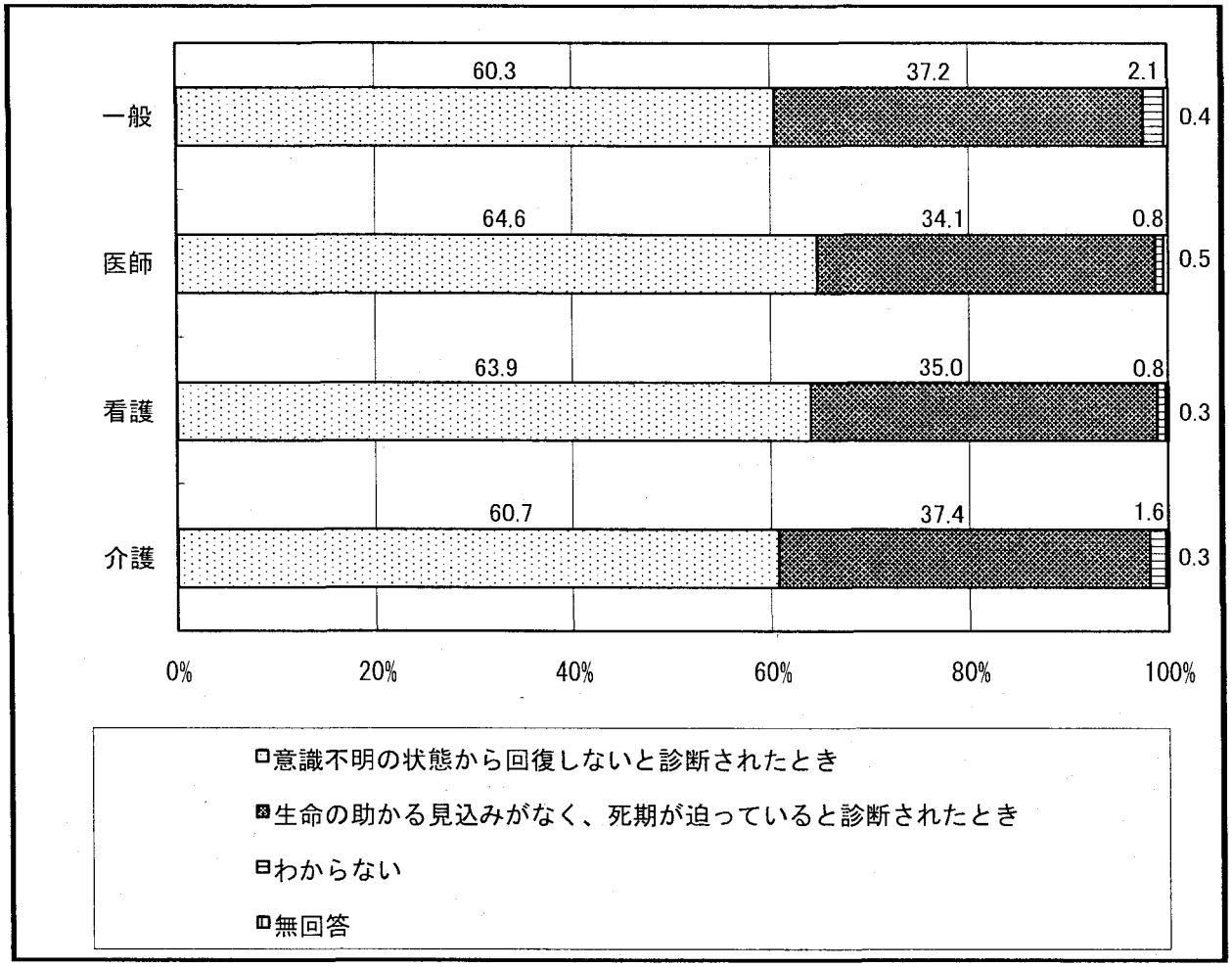

図 68

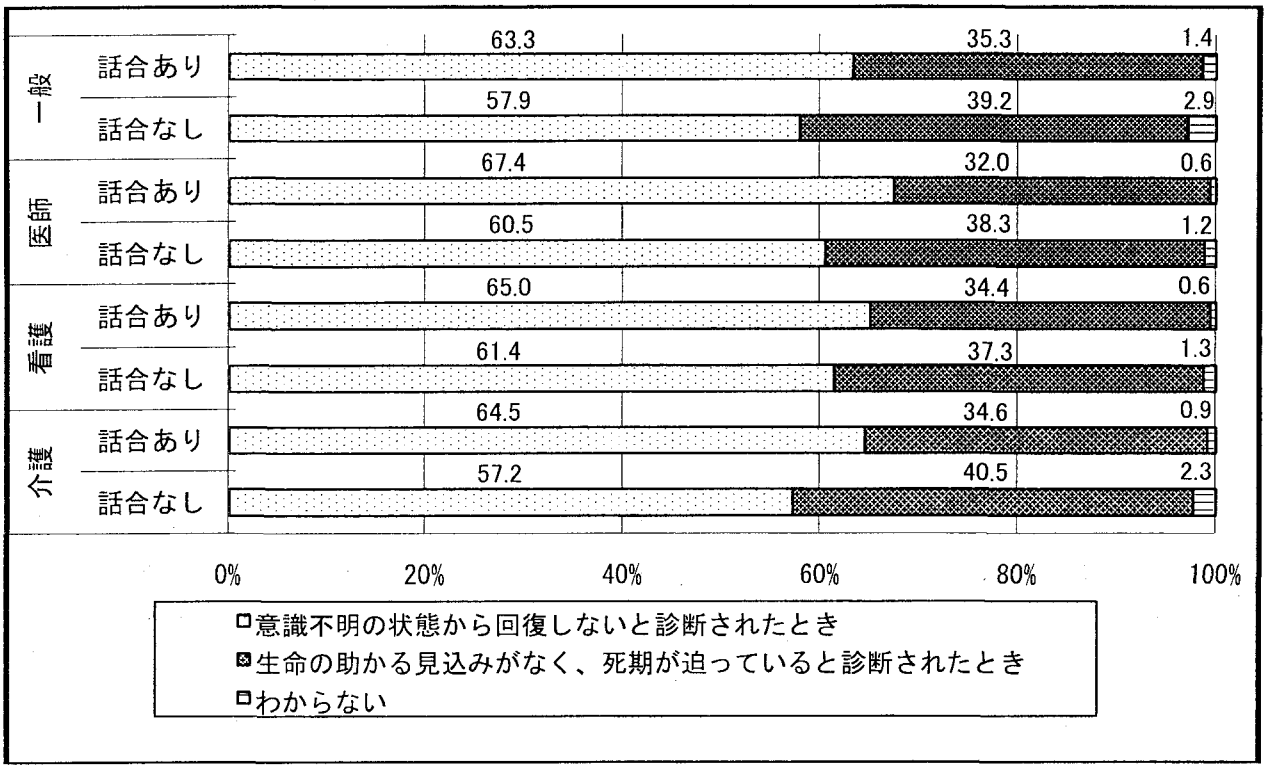
一般
話合あり
63.3
35.3
1.4
話合なし
57.9
39.2
2.9
医師
話合あり
67.4
32.0
0.6
話合なし
60.5
38.3
1.2
看護
話合あり
65.0
34.4
0.6
話合なし
61.4
37.3
1.3
介護
話合あり
64.5
34.6
0.9
話合なし
57.2
40.5
2.3
0%
20%
40%
60%
80%
100%
意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
わからない

図 69

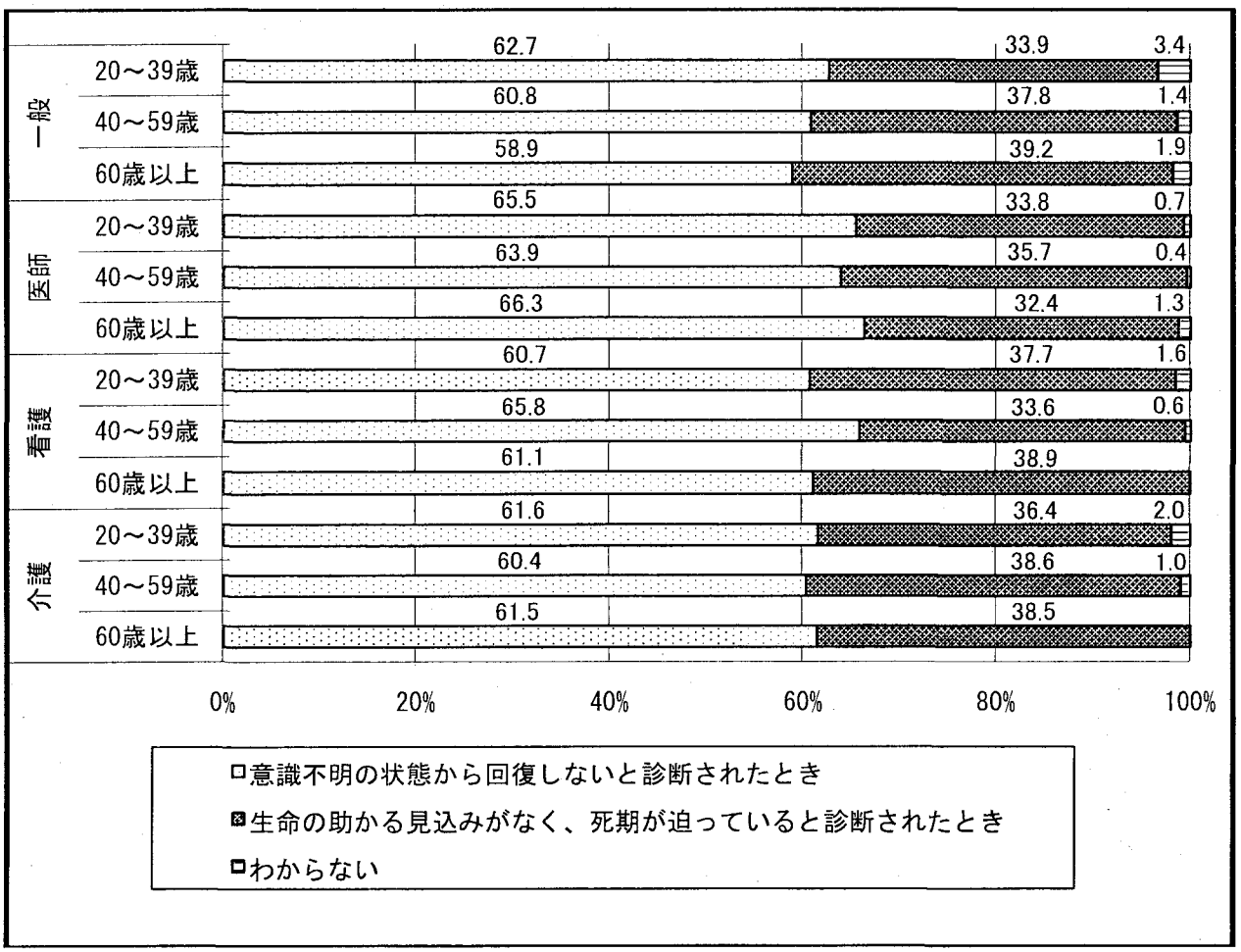
一般
20～39歳
62.7
33.9
3.4
40～59歳
60.8
37.8
1.4
60歳以上
58.9
39.2
1.9
医師
20～39歳
65.5
33.8
0.7
40～59歳
63.9
35.7
0.4
60歳以上
66.3
32.4
1.3
看護
20～39歳
60.7
37.7
1.6
40～59歳
65.8
33.6
0.6
60歳以上
61.1
38.9
介護
20～39歳
61.6
36.4
2.0
40～59歳
60.4
38.6
1.0
60歳以上
61.5
38.5
0%
20%
40%
60%
80%
100%
意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
わからない

図 70

【問 30　自分が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合、具体的にどのような治療を中止することを望むか（問 28 で「延命医療をどちらかというと望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象）】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止」と回答した者の割合が最も多かった（図７１）。

また、延命医療について家族との話し合いの有無では、一定の傾向は見られなかった（図７２）。年代別では、年代が上がるにつれて、「人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止」と回答した者の割合が増加する傾向が見られた（図７３）。

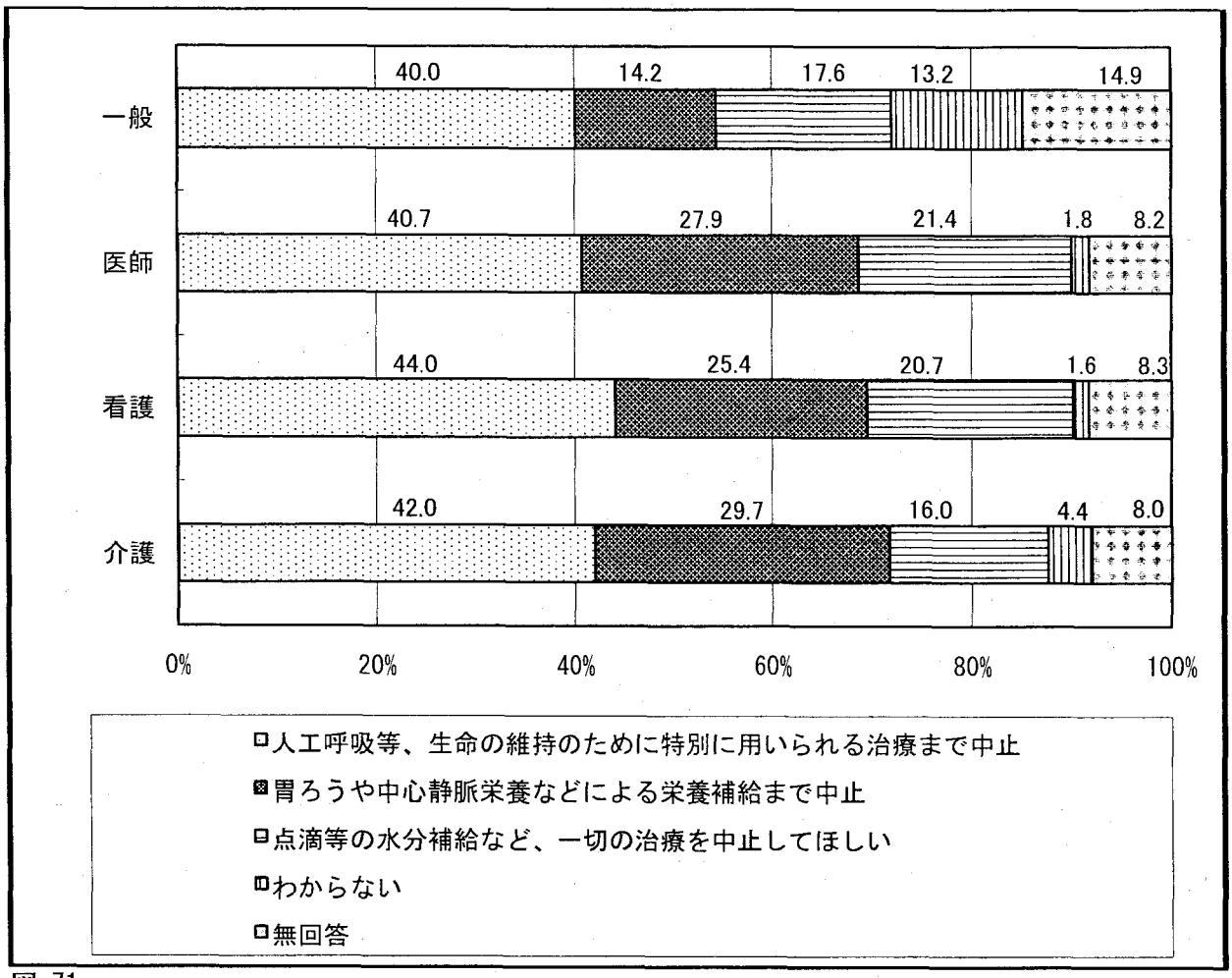

図 71

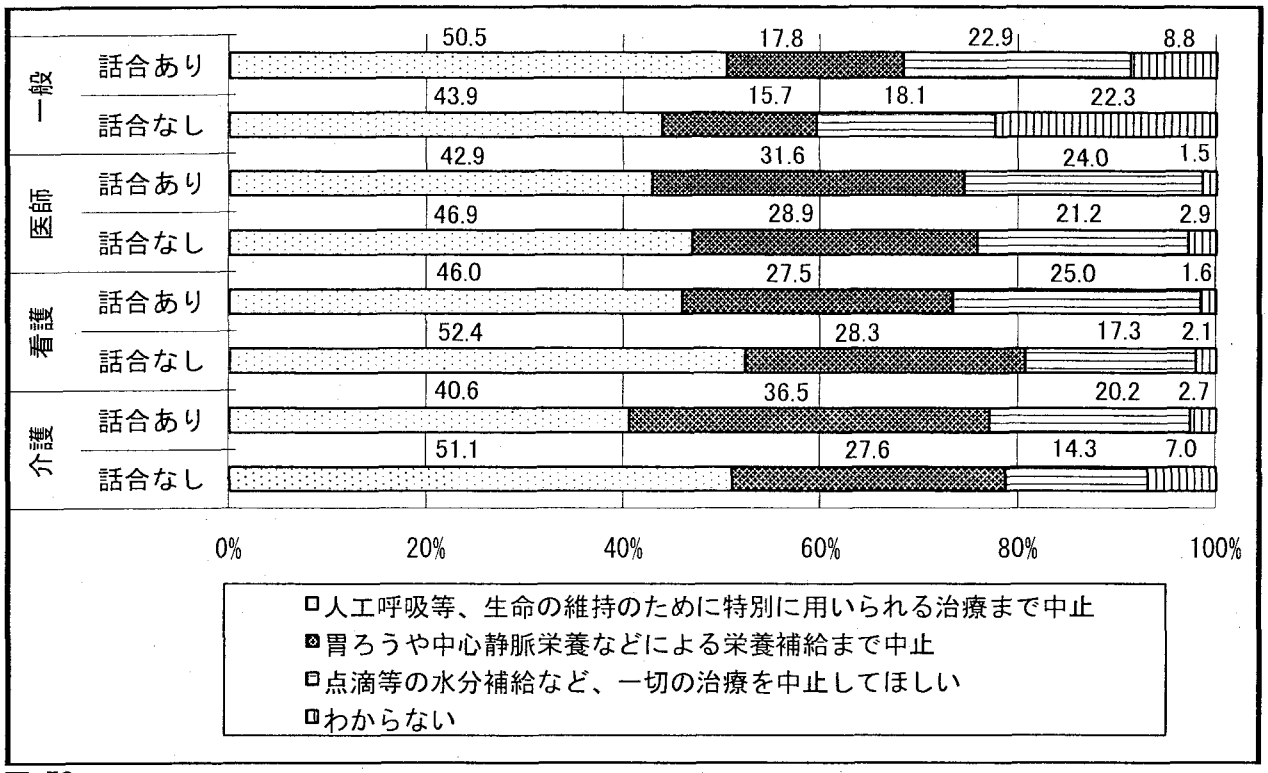
一般
話合あり
50.5
17.8
22.9
8.8
話合なし
43.9
15.7
18.1
22.3
医師
話合あり
42.9
31.6
24.0
1.5
話合なし
46.9
28.9
21.2
2.9
看護
話合あり
46.0
27.5
25.0
1.6
話合なし
52.4
28.3
17.3
2.1
介護
話合あり
40.6
36.5
20.2
2.7
話合なし
51.1
27.6
14.3
7.0
0%
20%
40%
60%
80%
100%
人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止
胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止
点滴等の水分補給など、一切の治療を中止してほしい
わからない

図 72

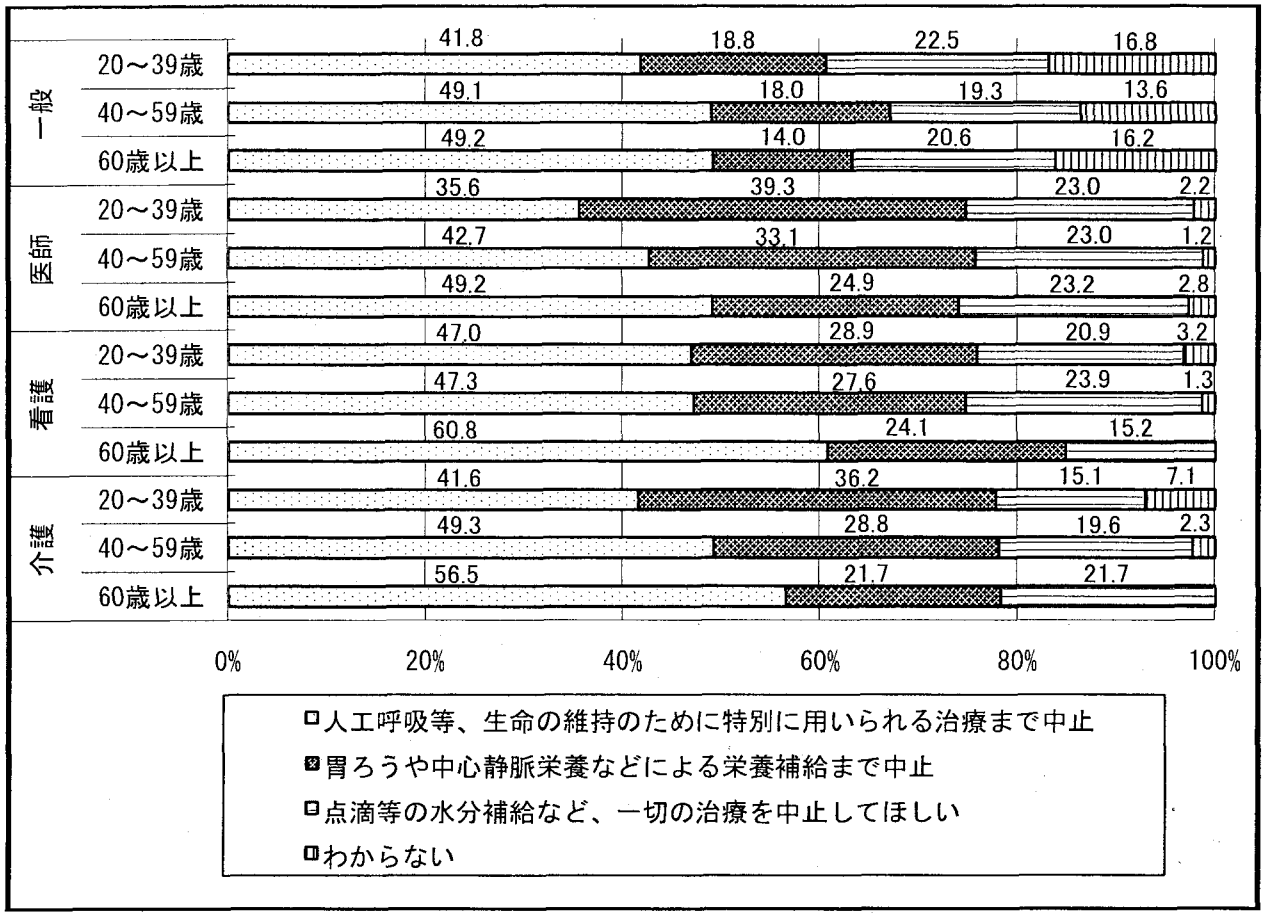
一般
20～39歳
41.8
18.8
22.5
16.8
40～59歳
49.1
18.0
19.3
13.6
60歳以上
49.2
14.0
20.6
16.2
医師
20～39歳
35.6
39.3
23.0
2.2
40～59歳
42.7
33.1
23.0
1.2
60歳以上
49.2
24.9
23.2
2.8
看護
20～39歳
47.0
28.9
20.9
3.2
40～59歳
47.3
27.6
23.9
1.3
60歳以上
60.8
24.1
15.2
介護
20～39歳
41.6
36.2
15.1
7.1
40～59歳
49.3
28.8
19.6
2.3
60歳以上
56.5
21.7
21.7
0%
20%
40%
60%
80%
100%
人工呼吸等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止
胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止
点滴等の水分補給など、一切の治療を中止してほしい
わからない

図 73

【問 31　自分の家族が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合の延命医療について】

一般国民及び医療福祉従事者ともに、延命医療に対して消極的な回答（「どちらかというと望まない」、「望まない」）をした者の割合が多かった（図７４）。

また、延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも、延命医療に消極的な回答をした者の割合が多かった（図７５）。年代別では、一定の傾向は見られなかった（図７６）。

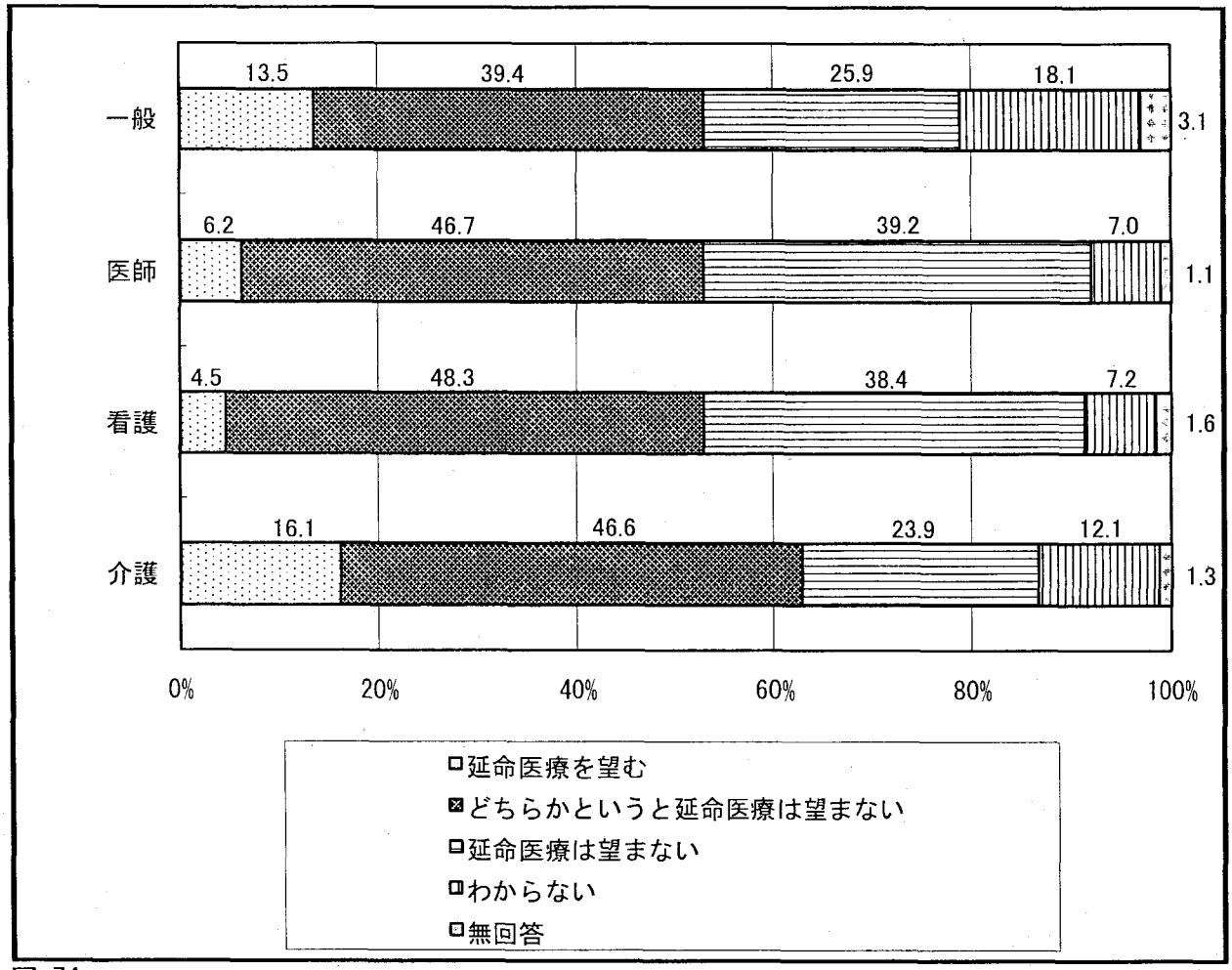

図 74

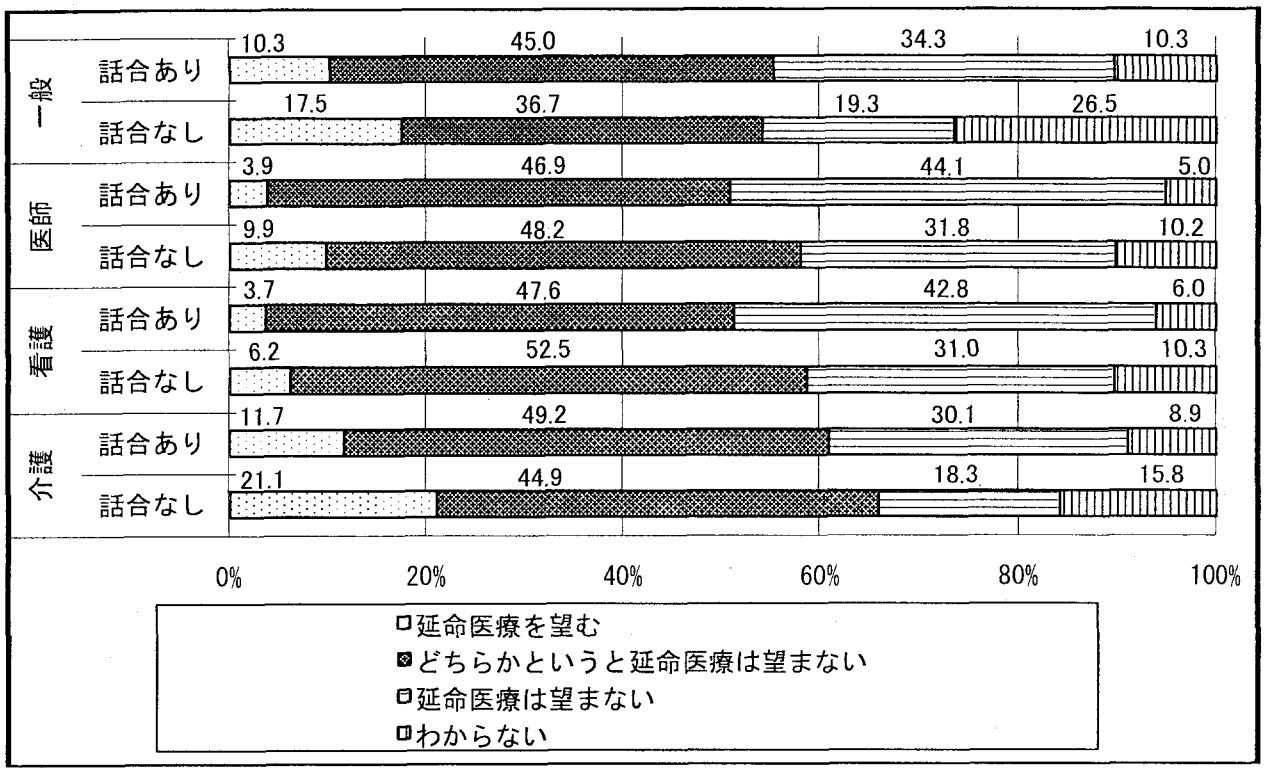
一般
話合あり
10.3
45.0
34.3
10.3
話合なし
17.5
36.7
19.3
26.5
医師
話合あり
3.9
46.9
44.1
5.0
話合なし
9.9
48.2
31.8
10.2
看護
話合あり
3.7
47.6
42.8
6.0
話合なし
6.2
52.5
31.0
10.3
介護
話合あり
11.7
49.2
30.1
8.9
話合なし
21.1
44.9
18.3
15.8
0%
20%
40%
60%
80%
100%
延命医療を望む
どちらかというと延命医療は望まない
延命医療は望まない
わからない

図 75

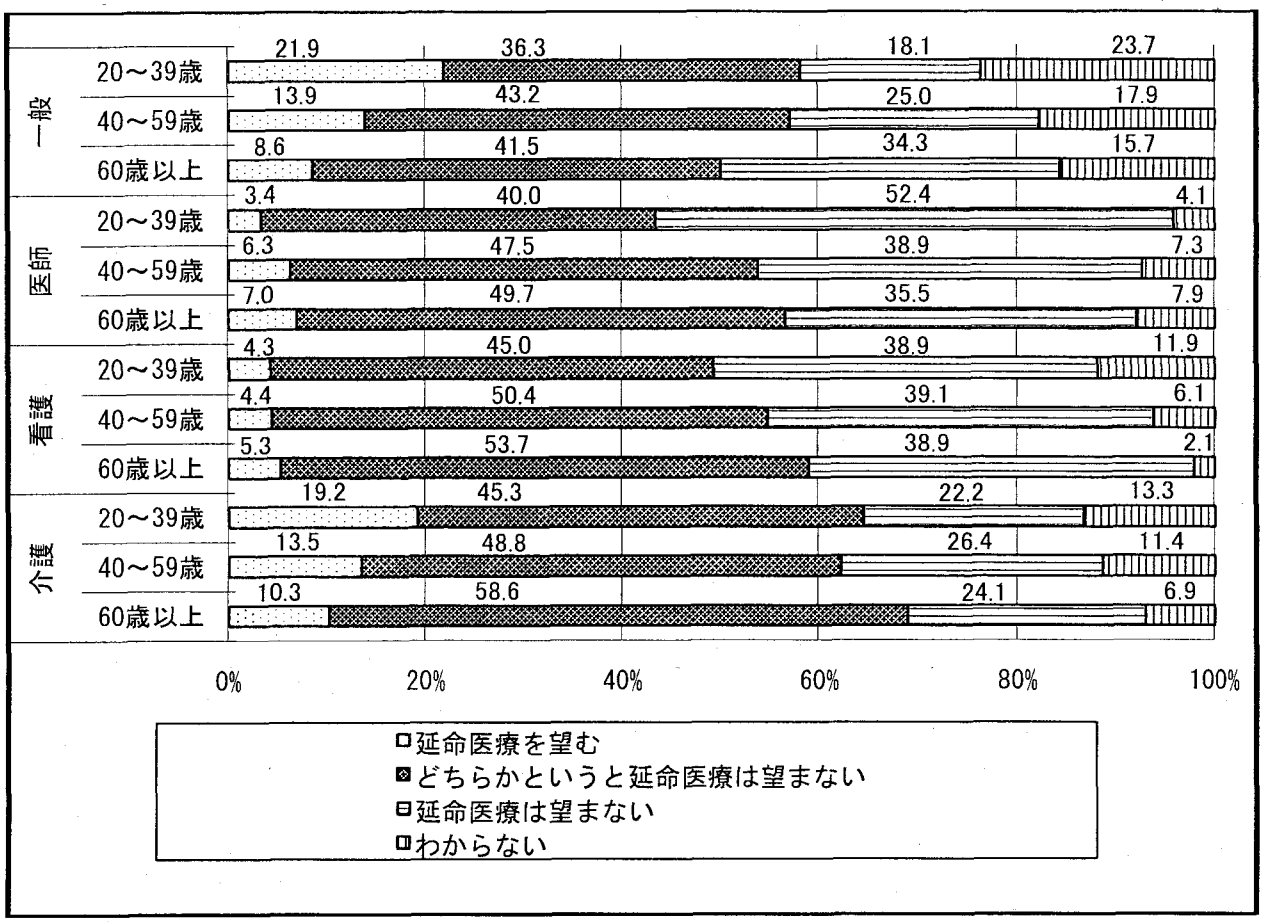
一般
20～39歳
21.9
36.3
18.1
23.7
40～59歳
13.9
43.2
25.0
17.9
60歳以上
8.6
41.5
34.3
15.7
医師
20～39歳
3.4
40.0
52.4
4.1
40～59歳
6.3
47.5
38.9
7.3
60歳以上
7.0
49.7
35.5
7.9
看護
20～39歳
4.3
45.0
38.9
11.9
40～59歳
4.4
50.4
39.1
6.1
60歳以上
5.3
53.7
38.9
2.1
介護
20～39歳
19.2
45.3
22.2
13.3
40～59歳
13.5
48.8
26.4
11.4
60歳以上
10.3
58.6
24.1
6.9
0%
20%
40%
60%
80%
100%
延命医療を望む
どちらかというと延命医療は望まない
延命医療は望まない
わからない

図 76